

「電車が揺れた弾みにね、こう肩がぶつかつちやつたりして……」

新入生のC子さんは目を輝かせて  
「出会いの瞬間」とやらを語り始める。もちろん空想なだけけど。

夢見る乙女——C子さんの空想は通学の車内で、はんなりと羽根を広げるらしい。まあ、片道2時間もありませんからね。

「あ、ごめんなさいって謝る瞬間に目が合っちゃったりしてね、そこから恋が始まるのっ」

いまだき昼下  
ラだってそんな  
ベタな台本は作  
らないわよ、とバカにしていたのだけれど、

「それが、夢じゃなかったのよ」  
トロンとした目で語るから、つい身を乗り出して聞いちゃった。

——ガタン、と電車が大きく揺れてつり草のカタマリがぎゅうつと片寄った。のほほんと席に座って空想の中にあつたC子さんのところにもどどつと。

「す、すみませんっ」。落ち着いた男性の声。C子さんの胸は一気に高鳴った。

「大丈夫ですか」。につこり微笑んで顔を上げたとき、再び電車は大きくカーブして傾いだ。

肩が触れたのではなかった。男性は背中を押された弾みでC子さんの膝の上にちよこんと座ってしまったのだから。立つに立てない満員の車内。さすがにこれにはC子さんも顔赤らめたが、「出会いだわ」と気を取り直して、顔を上げた。そのときはじめて目と目が合ったのだそうである。

### 夢見る乙女の…… マグネチュードフ

杖を手にした、  
小柄な男性と。  
「すみません」

としきりに恐縮しつつも「次の駅で、膝からも下車しますから」だなんて、この人冗談さえおっしゃった。年の頃なら……。

「白髪がステキなおジイサマ、だったわよ。軽くて、膝もさして痛むことなく」と、C子さんはいまも強がり言ってるのだけれど。

5・26東北が揺れた、その日の出来事。宮城や岩手はM7で大変だったというのに、もうッこの「多摩の夢子さん」ときたら……。 (雪)



サークルには縁ないが、ぶらりとCスクエア1階の喫茶店へ。

店内は広く、新築の香りがまだ残っている。帰りがけに小腹を満たそうとする学生やサークルの団体があるところどころに座っていた。

メニューにはいくつかのエスニックフードがある。フォーというベトナム風汁ビーフン、キーヌカレーとナンのセット、チキンココナッツカレー……料金も300円から400円とお手ごろ。鶏肉入りのフォーを注文することにした。

レタス、オニ  
オンスライス、

### 「宮城の実家は……」 地震とフォーの塩味と

だれにかけても  
つながらない。  
電話が殺到し、

鶏肉、茹でたトマトが入っている。スープを一口。鶏がらベースの少し濃い目の塩味。麺は弾力があつて歯ごたえがある。でも、茹でたトマトはおいしくないネ。

などと友人と談笑していると、突然、揺れた。5月26日——時に午後6時25分。窓側に座っていたが、大きな細長い窓がガタガタ揺れる。一瞬、

店内は静まり返る。1分近く揺れは続いた。

一緒にいたN子（総合政策・3年）は電話をか

け始めた。母親に連絡して地震の状況を聞いたのだという。まだ揺れが続く中で、肝が据わっている。もう一人は「窓の近くは危ないから逃げる準備しないと」と、もう腰を浮かせていたというのに。

「震源は岩手と宮城の沖合いだつて。震度6弱」

N子の言葉にドキリとした。記者の実家は宮城県である。78年の宮城県沖地震のことが頭をよぎった。すぐさま家族4人に電話をかける。が、

通信規制がかかっているらしかった。しばらくすると店内はまたにぎわいを見せ始めた。Cスクエアの外の灯がともるころには、地震の話題はすつとひいていった。

夜の9時前、ようやく家族と連絡がとれた。「びっくりしたよ。すごい揺れたんだから。でも大丈夫。壁にかけて絵が倒れたくらい」

弟のさばさばとした声が返ってきた。よかった、と安心したとたんにフォーの塩味が舌にかすかに残っているのを感じた。 (哲)



5月9日金曜日、総合政策学部では「EBS現代文化I」の大イベントが挙行された。

「EBS現代文化I」の一

行っていたようだ。今年設立10周年記念イベントを前に、総政のDNAが生き返ったような。

「新しい二オイ、ぴかぴかのフロア……。キレイすぎて落ちて着かないな。でもまあ、ここがわがサークルの新しい歴史のはじまりだ！なあ主務クンッ」

「そうですね部長、じゃあ早く今後の方針会議を始めてください」

「……淡白な奴め」

4月にCスクエアが竣工したことに伴い、5月の連休前までにいくつかのサークルが旧サークル棟からCスクエアに引っ越した。このサークルも今日は新・

部室での初の方針会議。自然と

「……冷静な奴め」

主務クンの

「それで予算が……ハ、ハクシヨーン！」

「おう、会計クン大丈夫か？ 大変だな花粉症も」

「すいません。あれ？部長も花粉症でしたか？目が真っ赤ですよ」

「そーいやさつきから目がカユかったが、ついに花粉症になっちゃったかな」

「でも……手のひらも真っ赤になつてませんか？」

「ほんとか副部長!? あ、言われ

てみれば、さつきから頭も痛くて。ろうひたんらろ」

「部長!? ろれつが回ってませんよっ」

「と言うより、ラリってますっ」

「ち、ちくしょう！ ハッ。まさかこの新築のCスクエア……。噂のシックハウス症候群か!？」

「ちがいます先輩。先輩が新しい建材の二オイに敏感なだけです。早く窓を開けて換気しましょう」

「……冷静な奴め」

主務クンの

ツツコミ通り、部長の症状はシックハウス症候群などではなく、単に部長が新しい二オイに過敏だっただけである。

「あ、換気したら体がラクになった。ホッ」

「よかったですね部長。じゃあ早く方針会議を続けましょう」

「(小声で) もう少しいたわってくれて……」

かくしてこのサークルでは、完備の冷暖房は親の仇ように無視され、つねに窓が全開だそうである。(猫)

代表者の政策科学科2年小野裕之さんは、「SAとして1年生に学部の可能性を提示しようとする中で、机上の空論にとどまらず実際に自分たちが行動を起こすことで、総政の可能性を示そうと思ったことがきっかけだった」と話す。また「ふだん大学ではアカデミックな活動をしている人にスポーツライต์が当たりがちだが、だからこそ音楽やダンスなど趣味の分野でそのパワーを発揮している人にアウトプットの場を提供したかった」とも。

実はこのクラブ企画、およそ10年前の総政1期生も同様のイベントを行っていたようだ。今年設立10周年記念イベントを前に、総政のDNAが生き返ったような。

総政の学生だけでなく教授たちも参加して、来場者は300人以上に。ダンスやアカペラ、バンドなどのパフォーマンス……在日韓国人の学生が韓国語でBoAの曲を歌うと、ひとときの歓声がわいた。

参加者からは、「同じ学部内でもなんにも音楽やダンスなどに長けている人がいることを肌で感じ、とやつてほしい」という声も多かったようだ。

ところでこの「現代文化I」という一瞬授業かと間違えてしまいそうなネーミング。ココロは? と聞くと、小野さんは「とにかく総政っぽい名前にしたかったんです。現代哲学という人気授業もありますし。次にやるときは、現代文化論にしてほしいですね」

ちなみに「現代哲学I」講義の中沢新一教授の姿は見たらなかったけれど。

「……冷静な奴め」

主務クンの

「……冷静な奴め」

主務クンの

「……冷静な奴め」

主務クンの

わたし、理工の2年生。多摩と

合同のサークルに所属している。で、多摩の人々との交流を通して、多摩と後楽園（理工）を比べてみるとなかなか面白いのである。

先輩Aさんは、経済学部の4年生。公務員を目指し、今は学校と予備校というダブルスクールの生活をしている。

Bさんは、法学部の3年生。いまは大学の授業一本だが、そろそろ資格が欲しいと思っっているようで、司法書士の資格をとるための予備校へ通おうかと

思案中である。

「学校の勉強？ あまり意味ないね。法律のことばかりだし」

友人のC君は、経済学部の2年生。前期は時間配分がうまくいって学校は週4らしい。

「空いてる時間は？」

「主にサークルとバイトだね。この前は15万くらい稼いだよ」

片や、理工学部に戻ると、3年の先輩Dさんは、学部から給付金をもらうほどの勉強派。すでに大学院のことをかなり考えているようである。

同級の友人Eさんは、一人暮らしもだいぶ慣れて来たみたい。サークルもバイトもしていないため、今は学校と家の間を行き来する日々。

「でも、授業とか詰まってるし、レポートが大変だし……。今一度実家に帰るんだ。早く帰りたいな……」

〈多摩はオープン、理工はタイト〉という趣もあるが、理工にだって友人F子は、学校も、サークルも、バイトも、と三足のわらじを履

いて超多忙。「遊ぶ暇もないくらい」とぼやいて

いるが、でも、遠くから見ていると、とても楽しそうでイキイキしている。うらやましいくらいに。

「終わらなき日常をまったりと生きよ」とおっしゃる社会学者（宮台真司氏）もいたけれど、人生いろいろ、学生もさまざま。

「わたしも、がんばらなきゃ」と思うこの頃である。

（走）

「サン敵し、スイ飲みてー」

「あーオニきつい」

猛暑のなか、きょうもY部は猛練習中。息も絶え絶えに発する雄叫びが、しかしどうにもわからない。ほんとに、ナニ言ってるんだか。

仲間うちことば、でしようね。学者の専門語から、業界ことは、若者ことばまで、まとめて「ジャーゴン」ともいうらしいけれど、これはもつと小さな村の「Y部語」とも言っ

ときましようか。ことのほかこの種の「隠語」

感覚に長けて、部外者にわかりにくい点でも群をぬいている。

寮の一室にて。

「明日授業どうする？」「スルー」

かわいい子が通りすぎれば皆で、

「パなくかわいい！」

と大騒ぎし、明日は彼女の誕生日

だね、と自慢げにS君は友人に一言。

「絶対プレゼント買わなきゃ」

ワカリます？

マネージャーの解説によると、サンとスイはそれぞれ山と水の音読み。

オニは超の意。スルーはthrough、

授業をサボること、とこれはフツーだが、「パない」は一体？

「半端じゃない」の略だそうである。「絶対」は絶対の絶で断定を表すのだとか。

きつい練習のあとは、寮の立ち風呂で裸のつきあい。1年生から4年生まで1室4人の相部屋で寝食を共にする。寝言で女の子の名前を叫んでサラシモノにされた部員もいれば、

真夜中、先輩が先輩をたたき起こして一発芸をやら

せたり、だそうなの「プライベーター」

トゾーンがベッドしかないとこが傷だけ」とS君は言うのである。

「相談や物の貸し借りはすぐに行き、部屋のメンバーが誕生日の時は部屋会を開いて祝うんですよ。すごい楽しいですよ」

「いつも一緒にいる」うちに笑いのツボさえ共有し、共通語が生まれ、それでまた友情と連帯を確認し合う、というような。

特異ともいえる「Y部語」は彼らの濃厚な時間と関係性の賜物であった。

（露）



「全員、起立!!」「押忍!」

かけ声をかけたO君は殺気だつていた。4月4日、新人生勧誘活動という名の戦争の幕開けである。

「いいかお前ら……。作戦はこの一週間で勝負である!」「押忍!」

ちなみにこのサークル、応援団ではなく某インカレサークル(インドにカレーを食べに行こうの会ではないほうの)である……。

「いいか! 近年このサークルにはなぜか女の子がひとりもない!」

そこで今年  
も女の子をいれ

### 野郎ばかりの…… 某部、決死の新勧誘ブルース

「そ、そうか、  
ナンバ気分だった  
よ!」

ろ!野郎にビラは配るな! クリオン・キャンパスとやらで学部棟にビラが貼れなかつた分、じゃんじゃん配れ! では行動開始!」「押忍!」

つまり場に行つても野郎ばかり、の危機的状況を回避したいO君以下は新歓に勝負をかけているのである。そしてペデ下は……。

「くっ、落研め、おい、そのセミロング」などと気安く声をかけおつてからに。はっ、居合道め白袴の女性を配置するとは卑怯なり」ウチも負けていられんばかりに

O君も猛然とビラを配り始めた。

「すいません、1年生の方ですか?」

「いえ、4年生です……。撃沈。すいません、スポーツサークルなんていかがつつすか?」

「興味ないんで……。撃沈。なぜだ? なぜみんなこんなにもクールなのだ!」

「O先輩! 自分好みの女の子にばっかり声かけないでください

よ!」  
「あ、えーとA君が空手経験者で、B君が弓道経験者、C君は柔道経験者だそうです」

「……」  
かくて某インカレサークルは、今年も野郎ばかり、しかもそろいもそろって猛者ぞろいだそうな……。

めでたしめでたし☆ (鬼)



イマドキの学生は空

き時間はバイトや旅行、また資格取得にと忙しく、サークル活動なんてメン

ド、という向きも多いけれど……。これはサークルに学生時代を捧げた経済学部4年Nさんのオイシイおはなしである。

Nさんが所属していたのは陶芸研究会。皿を焼いたり、好きな人と2人だけのマグカップを作ったり、いまトレンドイイな焼物サークルだ。ではあるが、9

号館の先、第二  
体育館をも越え

### 焼物からホタモチ サークルやっててよかった話

「キミ、ど  
んな器が好みだ  
ね?」

てズンズン歩いて行かねばならない。ようやく煙突の付いた怪しげな?小屋が現れる。そこが彼らの青春工房「作陶場」である。某日、訪ねてみれば、大きな土のカタマリを練る人

染料を調合する人、ろくろを回す人……。ロククやジャズをBGMに、ですからね。このフシギな感じがイイというか、チグハグというか。

「バスケやろーぜ!」

2、3人が外に出ていった。軽いバスケットボールに興じる。陶研では球技も盛んなのである。スポーツ

大会にだつて出場しているのである。息抜きのコーヒー、夏には工房でカキ氷を食べたり。もちろん、手にするカップは部員の作品。器の良さも味わいながら、というわけだ。

そんな陶芸研究会にNさんはドップリ浸かっていた。おらかな気分です、就職活動もノンビリであった。

「大丈夫かよ、オイ」と周りが気をもんだくらいだが、あつさりど、大建設会社の内定をもらうことができた。そのわけは……。

「あその土はいいよなア」  
面接の場が、陶芸の話で1時間は盛り上がったのだそう。おエライさんの面接官が骨董マニアだったのである。

「やってよかった。やってみるもんなんだよ、何事も」

Nさんは自慢のろくろを回しながら、サークルの後輩に、ココなら受かる!と面接の要諦アレコレ伝授したという話である。「そうウマくいきますか、2度も3度も」という

声もあるけれど。(Q)